

みながっ子

かしこく やさしく たくましく やりぬく



東広島市立三永小学校

【全校児童数】

1年1組	24名
2組	25名
2年1組	24名
2組	27名
3年1組	23名
2組	21名
4年1組	25名
2組	25名
5年1組	20名
2組	21名
6年1組	27名
2組	27名
すみれ	6名
たんぽぽ	3名
合計	298名

一年のスタートを気持ちよく



少し遅めではありましたが、十三日(金)に、校内の書初めを行いました。冬休み中に練習してきた成果を発揮するとともに、自分の目標に向かって頑張る気持ちをこめて、集中して書いていました。

本年度は、どうか「とんど」を行うことができそうです。願いととも、高く舞い上がってくれると良いですね。

地域へ 健康づくりのよびかけ 5年生の取組



12月13日・20日(火)の2日を使って、三永地域センターと5年生が合同企画運営する「気持ちすっきり!健康フェスティバル」を実施しました。

5年生の運営する行事に、多くの地域・保護者の方がご参加くださったことで、子ども達のやる気が一層高まり、多くの学びにつながったようです。

～児童の振り返りから～(概略)

- 【取組について】
- 誰かのために取り組んで、参加された方が喜んでくださるのは嬉しい。(笑顔が嬉しかった。)
 - 年齢の違う方と触れ合うことは大切だと知った。
 - おもてなしの仕方(丁寧な対応 笑顔)
 - 積極的になることができた。

- 【取組からの気づき】
- 色々な人と触れ合うことで、普段気づかないことや相手の思いに気づくようになった。
 - 自分たちの良さも分かったが、自分たちの弱い部分にも気が付いた。
 - 相手に合わせた表現の仕方をしていくことが大切であるということ。質問も応えやすいものに変えることで会話がスムーズになる。

- 【学んだこと・身に付いた力 等】
- 一緒に活動して、その場や参加してくださった方の気持ちを盛り上げていくこと。
 - 分からないことを人に聞く大切さ。違う意見を出し合う中で、新しい考えがうまれた。
 - 陰で支えたり、応援したりしてくれる人の存在を知った。自分も、そうになりたい。

• 同じ目標に向かって取り組むことの大切さ。意見がまとまらないこともあったが、決まったら本気で協力し合えた。

• 友だちとの支え合い。自分から話しかけなければいけない状況で、なかなか一言がでなかったけれど、友だちの存在が、勇気をくれた。

など、5年生は、計画準備の段階から当日の取組に至るまでの経過を通して、多くのことを体感し、学びとして吸収したようです。今後も、可能な限り、この取組については継続していきたいと思っております。

今回の企画にご参加くださいました皆様、企画運営にかかわってくださった三永地域センターの方々に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

One for all, All for one

12月27日(火)に行われた東広島市球技交流会では、4年生の参加選手が気持ちの揃った試合運びで熱戦を繰り広げ、午前中Bブロックで1位となりました。出場が決まってから、毎日練習を続けてきた選手たちのチームワークは素晴らしく、窮地に立っても慌てることなく、1つずつアウトを取っていきました。出場の機会はなかったけれど、出場した友だちを支えてきた人たちの力にも後押しされ、4試合を3勝1分けで終了しました。

ただ投げて当てる・来たボールを取るという動きではなく、無理をしないで上手に逃げたり、当てやすい所に相手が行くまでボールを回したりという判断の伴った動きが、随所に見られた素晴らしい試合でした。



門松づくり 第15代へバトンを 準備 ありがとうございました

12月17日(土)、三永小学校区教育推進連合協議会の皆さんを中心とした方々が、学校の玄関に立派な門松を立ててくださいました。学校の玄関で、児童が見上げる高さの竹が、笑顔で迎えてくれているようでした。

5年生が、楽器体験を行いました。6年生は、自分が扱ってきた楽器について、音の出し方等を分かりやすく伝えていねいに伝えてくれています。

「とんど」に向け、15日(日)の午前中を使って準備が行われました。三永まちづくり協議会・PTA有志の皆様を中心に材料となる竹やヒノキを伐採・運搬をしていただき、当日に向けて準備が整いました。



2月の行事予定

新年 あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大に関しては、今後も十分に注意をしながら、今後の行事等を行っていきたいと考えております。ご理解・ご協力をお願いいたします。

日	曜	学校行事	下校時刻変更	14時50分	15時40分
1	水	木曜日程 心のサポーター		一斉下校	
2	木	学校運営委員会		一斉下校	
3	金	向陽中入学説明会 木曜日程	13:50 6年生	1~5年生	
4	土				
5	日				
6	月	委員会		1・2年生	3~6年生
7	火			1・3年生	2・4~6年生
8	水			1・2年生	3~6年生
9	木			一斉下校	
10	金	スクールカウンセラー		1・2年生	3~6年生
11	土				
12	日				
13	月	クラブ(3年生見学)		1・2年生	3~6年生
14	火		13:50 1年生	3年生	2・4~6年生
15	水	心のサポーター		1・2年生	3~6年生
16	木	学校保健委員会 放課後子供教室		一斉下校	
17	金			1・2年生	3~6年生
18	土				
19	日				
20	月			1・2年生	3~6年生
21	火			1・3年生	2・4~6年生
22	水			1・2年生	3~6年生
23	木	天皇誕生日			
24	金			1・2年生	3~6年生
25	土	参観日・地域懇談会・学級懇談 新入生物品販売	11:15 一斉下校		
26	日				
27	月	振替休日			
28	火			1・3年生	2・4~6年生

Q 自閉症というのはどんな障害ですか？

A 自閉症とは、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達障害である。

その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いが、小学生年代まで問題が顕在しないこともある。中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されている。

C 文部科学省は、自閉症のある子どもの教育的ニーズについて次のように記しています。

「早期からの教育的対応の重要性 自閉症は、多くの場合、乳幼児期における健康診査(乳幼児健診と称される)などで、周囲の大人や子どもに対する関心のあることや音に対する過敏性や鈍磨性の様子などから、指摘されることがある。ただし、音に対する反応だけから自閉症であることが疑われることは稀(まれ)で、乳幼児期に気付かれるのは、言葉の遅れや働きかけへの反応の乏しさ、マイペースな行動などが多いとされていることに留意が必要である。」



幼児期になり、幼稚園等の就学前機関における、同年代の友達とのかかわりや小集団での生活が始まると、自閉症という障害の特性から生じる生活上の困難さとそれへの対応の難しさが現れる場合が多い。自閉症の教育的対応は、当初は困難であることが多いと指摘されている。それは、親密で安定した情緒的な関係を築くことの難しさ、こだわりや興味・関心のある限定による集団生活の難しさ、周囲が受け入れられない行動への対処の難しさが見られるからであり、その他にも刺激に対する過敏性や行動上の問題(自傷行為や睡眠障害など)などへの対応が困難であるからである。成長を促すため、適切に対応する上で、そのような困難さを理解することが、特に重要である。具体的な対応としては、例えば、状況の認識に困難が伴うことを支援するために環境を分かりやすく構造化する、ある一定の生活のリズム(活動の時間帯や内容等)を継続して提供すること、いろいろな活動場面でしばしば混乱することへの対応、個々に特有な課題、適した時間帯、適した接し方での対応などがあげられる。さらに、人とかかわりや活動への適切な参加の仕方などを、学習課題として明確化し、早期から対応していくことが大切である。」



また、自閉症のある子どもに必要な指導内容として次のように記されています。

「自閉症のある子どもに対する支援は、基本的には、自閉症やそれに類するものによる適応不全の改善を目的とする。したがって、社会生活への適応が困難であるために、特別な教育的支援が必要な子どもが自閉症教育の対象となることを念頭に置く必要がある。そのため、自閉症教育では、円滑に集団に適応していくことなどができるようにするために、多様な状態に応じた指導が大切であり、基本的な生活習慣の確立を図ること、適切に意思の交換を図ること、円滑な対人関係を築く方法を獲得すること、目標をもって学習に取り組むこと、基礎的・基本的な学力を身に付けることなど、個々の子どもによって指導目標や指導内容・方法の重点が異なることに留意する。なお、指導方法における配慮として、自閉症のある子どもが学習をしやすくするために、その特性にその特性に応じた配慮をしており、例えば、見通しをもちやすくしたり、課題を分かりやすくしたりするために、活動の場を構造化したり、視覚的な情報を多く活用したりするなどを行っている。」

C では、通級指導教室の実際の指導や私自身が自閉症のある児童との出会いで学んだことを紹介したいと思います。

次号に続く

編集後記

今年の「干支」と「十二支」の組み合わせは「癸卯(みずのと・う)だぞです。」「癸」が持つ意味は、「種子が計ることができるほどの大きくなり、春の間近でつぼみが花開く直前である」だそう。で、「卯」がもとも「茂」という字が由来らしく「春の訪れを感じる」という意味があることから、「癸卯」には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表している意味を持っているのだぞです。

依然として新型コロナウイルスの流行が終息をみませんが、少しずつ生活環境は変化しているように思います。「癸卯」が持つ意味のごとく、一日でも早く、安心して子ども達が伸び伸びと活動できる時が訪れてくれることを心から待ち望んでいます。

